

# 日本共産党 第17、18次ボランティア報告 石巻

日本共産党港地区委員会は、第17、18次ボランティアをおこないました。日本共産党「震災・救援センター」を拠点にして石巻市での活動と牡鹿半島でのワカメ作業でした。



第17次ボランティアは、3月13日夜から17日まで石巻市の仮設住宅と牡鹿半島のワカメ収穫のボランティア活動をしました。第18次ボランティアは、5月連休にワカメの収穫作業をおこないました。

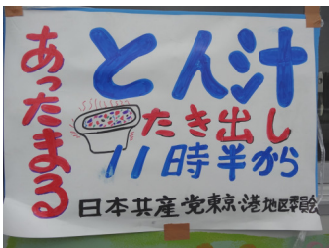
3. 11から3年が経ちました。日和山では犠牲者へ花が添えられていました。ガレキはほとんど無くなっています。

## 今回も喜ばれたとん汁

3月14日はとん汁の炊き出しです。出発前に港区で野菜を切って準備をしました。

永押（みずおし）という126戸の仮設住宅に移動します。石巻野球場「のグラウンド」に設置されています。

港からボランティアは5名、現時スタッフ6名といっしょに、救援物資のお届けをします。米、ジャガイモ、タマネギ、洗剤、トイレットパーパーなどを各世帯に届けます。大変喜ばれます。被災者の多くは、貯金をおろして生活していますから、「これで何日かしのげる」とホッとするのです。その後、集会所で無料バザーです。衣類や日用品、子どものおもちゃ、食器類を並べます。物資のほとんどが無くなるほどの好評でした。



同時並行でとん汁の作業を進めます。下煮込みしてある具材をどんどん煮込んで完成させます。

ナベの中には、大根12本、ニンジン24本、里いも200、ゴボウ16本、コンニャク6袋、豚肉6キロ、コクだしの生姜2つ、味噌大5が入っています。コクが出ます。この日は、結構寒かったのでとん汁は温まります。

ふーふーいいながら食べます。爪なべを持ってね」と声をかけ、夜、うどんを入れて食べると美味しいですよ」と渡します。それ、ぜひやります」と返事が返ってきます。嬉しいですね。

この後、片付けをしてセンターへ戻りました。ふたこの湯に入ると、登米市米谷の宿舍へ移動です。翌日は、牡鹿半島へ移動してワカメの収穫後の作業です。初めての経験で参加者もドキドキ、ワクワクしながら、夕食と交流を深めました。

## 牡鹿半島でワカメの作業

3月15日、宿舍を出て牡鹿半島へ向かいます。

小淵浜へ到着し、ワカメのポイルや仕分け作業です。どでかいメカブを茎から切り離します。道具がかわいいですね。つるつるとおもしろいように剥けます。

この作業に女性陣と高齢者がつきましました。

もう一つの作業が、ワカメをポイルする仕事です。大きな入れ物の中に、とれたてのワカメが入っています。これが1トンです。そ

れをベルトコンベアーで釜のなかに送り込みます。塩ゆでするので。紫色のワカメが真っ青に変わります。これを冷水に入れ袋詰めされます。

ポイルしたワカメは、室内に移して小分け作業です。最高級のワカメと次に高級な部分、茎ワカメなど分別します。汚れた部分を取り除き、圧縮して水分を絞ります。塩水がたっぷりできてきます。

これを出荷用の段ボール15キログラムに詰めれば完成です。これだけ手数のかかる作業なのです。だから美味しいのですよ。

## あんな地獄は絶対にイヤ 天丈夫。俺が必ず守る」

作業の休憩中に、お店のご夫妻から、被災時の話を聞きました。

3. 11の津波で自宅と作業場がやられました。1階はもろに津波を受け住めません。今も仮設住宅に暮らしています。

「ご主人が、生きているうちに、もう一度津波が来るかも知れない」と話すと、奥さんが、あんな地獄は、ぜったいにイヤ」。ご主人が「天丈夫だ。俺が手をつないで逃げる。必ず守ってやる」。お二人とも涙で話します。

被災後にボランティアの物資支援を受けたことを大変感謝していました。そして、被災後すこし安定した時には、避難所に暮らしている被災者に救援物資を届けたそうです。そうやって支え合ってきたのですね。

作業を終えて、すぐ近くの民宿に移動してお風呂、夕食です。からだはぐったり、すぐに床につき熟睡です。